

「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」

想像した自分の思いや考えが伝わるように音読することができる

登場人物の行動や気持ちの変化について想像しながら音読することに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、この課題を解決するために、物語の内容と自分のもっている知識や経験などを結び付けながら、繰り返し何度も声に出して物語を読むことで、想像を広げたり理解を深めたりする指導事例を紹介します。なお、本アイデアは、第3学年及び第4学年以上を対象としています。

授業アイデア例

単元「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」（全8時間）

昔話を取り上げるよさは？

昔話を読むことを通して、伝統的な言語文化としての古典に出会い、親しんでいく始まりとなります。また、地域において口承されてきた民話などを取り上げることも考えられます。

こんな民話・昔話があります

- ・おおきなかぶ ・いなばの白うさぎ ・花さかじいさん
 - ・かさこじぞう ・スーホの白い馬（スーフと馬頭琴）など
- ※日本だけでなく、世界の民話・昔話が教科書で紹介されています。

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

第二次

第三次

昔話の大好きな場面を選び、音読して紹介する

- ① 教師による、違ったモデルの音読を聞き比べることで、読み手の感じ方の違いによって音読の仕方が変わることに気付く。
- ② 昔話を音読して紹介するというテーマを設定し、昔話を読んで、自分が感じたことを音読して紹介する学習の見通しをもつ。

- 教師が二つの違った音読のモデルを示すことで、児童が二つの音読を比較しながら、読み手の感じ方の違いによって音読の仕方が変わることに気付くようにする。
- どんな声を出したときに、どんな気持ちや場面の様子を表現できるか、様々な声を出すことで、音読を工夫することに対する興味・関心を高めるようにする。

- ③ 【びょうぶのとらのお話】（『一休さんとんち話』）を読んで、場面の移り変わりや、登場人物の気持ちの変化を捉える。
 - ④ 何度も繰り返し音読しながら、自分の感じ方に合わせて音読の工夫を考える。
 - ⑤ 互いに音読を聞き、助言し合う。
- 第三次に入る前に・・・
- ⑥ 全員で共通した昔話の一つを取り上げ、感じ方の違いに合わせた音読の工夫を取り入れる。

- 音読を中心にしながら、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えるようにする。
- 「音読するときに工夫するポイント」を具体的に示すことで、児童が音読を繰り返しながら、自分の感じ方に合う音読の仕方を見付けることができるようにする。
- 「～な様子や～の気持ちを表します。」と紹介してから音読し、自分の感じ方に合った音読になっているかという観点で友達同士聞き合い、助言し合うようにする。
- 共通の昔話を通して、再度、音読の工夫について確認してから第三次に入るようにする。

- ⑦ 並行読書した昔話の中から、自分が紹介したい作品を選び、場面を決めて音読の工夫を考える。
- ⑧ 自分が感じたことを音読で表し、友達や他学年の児童に紹介する。

- 様々な音読の工夫を繰り返し試しながら自分の感じたことを伝えられる工夫を選択していくようにする。
- 音読で紹介する際、なぜその場面を選んだのか、その理由についても伝えるようにする。

単元を通して、昔話の並行読書

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 音読の工夫について学習する際に、傍線や記号などを使って視覚的に表現することなども考えられます。
- 第三次の学習に入る前に、教材文のほかの昔話を取り上げて共通教材とし、各自の音読の工夫について確かめることで、第二次の学習で身に付けた力をより適用できるようにします。
- 本や文章の内容や表現の特徴に合わせて、音読の目的や方法を工夫させることが大切です。

課題の見られた問題の概要と結果

B③ 相手や目的に応じて読み聞かせをする 〈とんち話「びょうぶのとらのお話」〉

B③二 正答率 **66.8%** 声に出して読むときの工夫とその理由を書く

学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 C ア
〔第5学年及び第6学年〕 B ウ

第一次①／8 教師による音読を聞き、自分の好きな昔話を音読して紹介するという単元の見通しをもつ

〈1時〉 違ったモデルの音読を聞いて比べる。

教材例：とんち話
「びょうぶのとらのお話」

(困ったような低い声で)
「実は、このとらじゃ。」

(とぼけたような高い声で)
「実は、このとらじゃ。」

どうして先生の音読は違ったのな？

Aさん

音読を工夫することへの興味を高める。

音読するときに注意することは、登場人物の気持ちの変化を想像しながら声に出して読んでいくことです。

感じ方の違いで音読の仕方が変わるんだな。

相手に伝わるような声の出し方を工夫しよう。

声の大きさや読む速さを変えて読んでみよう。

Bさん

Cさん

Dさん

第二次④⑤／8 教材の文章を使って、繰り返し音読をしながら、音読の工夫とその理由を明らかにする

〈4時〉 音読の工夫を考える。

教材例：とんち話「びょうぶのとらのお話」

ぼくは、大きな声で、あらい感じで読みます。その理由は、とのさまは一休さんの言った言葉に対して腹が立ったからです。

Bさん

もうよい。
わしの負けじゃ。

わたしは、小さい声で読みます。とのさまは一休さんにやりこめられてしまい、落ち込んで元気をなくしたからです。

Aさん

とのさまは、思ったとおりになくなくて残念な気持ちだったと思います。だから、わたしは、声をだんだん低くして読みます。

Cさん

ぼくは、間を取りながらゆっくりとした速さで読みます。なぜなら、一休さんのとんちに感じたとのさまの気持ちを表すことができると思うからです。

Dさん

間	声				音読するときに工夫するポイント例
	高さ	速さ	強さ	大きさ	
取る・取らない	高い・低い	速い・ゆっくり	強い・弱い	大きい・小さい	

「音読するときに工夫するポイント」を活用して、自分の感じ方に合う音読の仕方を見付けることができるようにします。



自分の感じ方にぴったり合う音読の仕方を見付けるために繰り返し読むよう児童に促していくことが大切です。



〈5時〉 助言し合い、自分の音読に生かす。

ポイント

一人一人の感じ方には違いがあることを大切にしながら、音読の楽しさを味わえるような活動にしていける必要があります。

なるほど。

Cさんは、ゆっくり音読すると、残念な気持ちが強く伝わると思うよ。

Cさん

Dさん

Bさんは、もう少し怒ったように音読するのいいと思うなあ。そうするととのさまが腹を立てている様子がよく分かるよ。

Bさん

じゃあ、もっと大きな声で音読してみよう。それから、間の取り方はどうしようかな。

Aさん

第三次 並行読書の中から選んだ作品を紹介するために音読の工夫をする

参照▶「平成27年度 報告書 小学校 国語」P.66～P.72,「平成27年度 解説資料 小学校 国語」P.54～P.59